

## NETWORK VOL.137

## TERRA



## 夢の学校 ぼうけんタマテ箱・・・

タマテ箱を開けると、そこは笑顔、驚き、発見、感動、涙・・・など様々です。

先日、ラジオで出会った言葉が忘れられません。  
「沈黙の春」で有名なレイチェル・カーソンの言葉です。  
子どもたちに、ハッと息を飲むような経験を・・・。

レイチェル・カーソンは、「センス・オブ・ワンダー」の中で言っています。  
『『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちが  
あう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒  
やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を  
耕すときです。』  
(上遠恵子／訳 新潮社)

私自身、子ども達と過ごす中で様々な気付きがあります。子どもたちと過ごすからこそ  
見える1枚の葉っぱの美しさ、朝の空気の静けさにハッとさせられるのです。

そして、たくさんの人に支えられているタマテ箱を思う時、人はつながりあって生きて  
いること、大自然の中で生かされていることを感じるのです。

子ども達が、タマテ箱からあふれ出る様々を「感じる」こと。  
これからもタマテ箱が、子ども達の夢・未来を育んでいくことを信じています。

ぼうけんタマテ箱ボランティア 相良貴子Taco

## CONTENTS ■ 2010冬

古賀武夫永久名誉会長の言葉を辿る  
「志と品格―光り輝いて生きる―(5)」  
大野 博之 2

## ■地球市民の会

|               |       |     |
|---------------|-------|-----|
| 和顔愛語          | 佐藤 昭二 | 3   |
| タイ奨学金・現地訪問報告  |       | 4～5 |
| 村プロジェクト活動だより  |       | 6   |
| テラネット全国大会in幣立 |       | 7   |
| ミャンマー通信       |       | 8   |
| 行く人、来る人       |       | 9   |

## ■夢の学校をつくる会

|                        |               |    |
|------------------------|---------------|----|
| 夢の学校タマテ箱               |               | 10 |
| 夢の学校への思い<br>私の考える教育とは？ | 満岡 聡<br>山口 則子 | 11 |

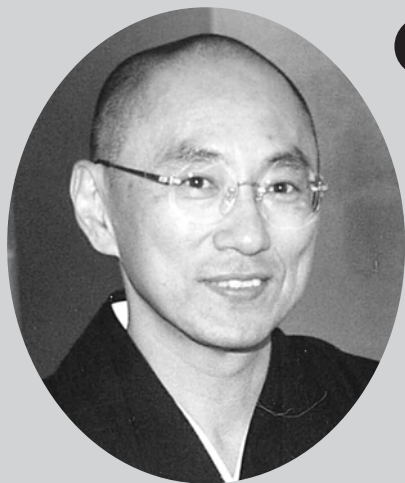
## ■古賀英語・空手道場

|          |       |    |
|----------|-------|----|
| 武夫先生 回想録 | 池田晃太郎 | 12 |
|----------|-------|----|

## ■共同執筆

|                                           |  |    |
|-------------------------------------------|--|----|
| 協力者一覧                                     |  | 13 |
| 1～3月のお知らせ<br>スタッフのひとこと「さよなら、畑恵子」<br>事務所住所 |  | 14 |





## 志と品格

### —光り輝いて生きる— (5)

『認め合い、許しあう』

大野 博之

古賀武夫ブックレット第2号『志と品格—光り輝いて生きる—』で辿ってきた古賀先生の言葉も今号で終わりです。癌の手術という大きな出来事のなかで、今までの考えを総括し、改めて自らが進む方向について心定めた過程が記述されたブックレットでした。悼尾を飾るのは第十五回小さな地球計画についての言葉からです。

先日、『スノープリンス 禁じられた恋のメロディ』という日本映画（何でも日本版『フランダーズの犬』だそうですが）が公開されるというので、その映画の主題歌がラジオで流されていました。その歌詞の中で印象的なところがありました。それは「世界が今、憎み合っているのは誰もがきつと、ごめんねを言わない」というところでした。

地球市民の会の看板事業である「小さな地球計画」。世界中の日本語を学ぶ外国人を九州に呼んで「九州を小さな地球に」するという、ホームステイ事業でした。目的は、普段着の国際交流事業の中で世界の様々な違いを認め合い、真の友情を築こう、ということでした。

さて、二〇〇〇年八月には第十五回大会が実施されましたが、この小さな地球計画ではちよつとした事件が起こってしまいました。香港から参加した二十六歳の女性、そして、何回もホームステイをしてきたホストファミリーの方との間にそれは生じたのでした。

普段着の交流を謳い、親戚の子どもが帰ってきたつもりでホームステイをするということになっていたのに、香港の参加者は「お客さん」として扱われることを期待し、不満が出てきます。ホストファミリーは家族として今までと同じ通り迎えているのに、相手が不満顔で、どうも今回は様子が少し違うゾ、と感情を硬化していきます。

そのような時、ちよつとした行き違いが大きな摩擦となってしまうました。そして、ホストファミリーの方の怒りが爆発しました。「一所懸命にお世話をしよう」と準備をしているのに、こんなに自分勝手に未熟な娘は見たことがない」と。一方、香港参加者は「そんなホストファミリーは怖くて、その家には戻りたくない」と言い出し収束のつかない状態に。結局、香港参加者はリタイアし、自国に戻ってしまいました。

この事件に対し古賀先生は「異文化間のコミュニケーションは何が起こるかかわからない。だから、『ベキ』や『当然』の考えを一度頭から追い出し、できるだけ、透明に、ぐにやぐにやに、柔軟に、寛容に、なるのが必要」だとし、「相手を認め合えず、許しあえなかったとするとすれば、これは正に、戦争の原因そのものではないでしょうか」と問うています。一度摩擦が生じてもお互いが認め合って最初に「ごめんね」を言えば大きな問題にならなかったのに、この「ごめんね」が言えなかったのです。

地球市民の会の副会長である草場一壽さんは、ベストセラー絵本「ヌチヌグスージ〜いのちのまつり〜」の原作者ですが、講演会で子育てや命についてお話されます。（草場さんは古賀会長の甥に当たります。）ある講演会で聴衆の一人のお母さんらしき女性から子育てで一番大切なことはなんでしょうか、と質問され「『ありがとう』と『ごめんなさい』が言える子どもに育てることではないでしょうか」と答えられました。

二〇〇九年の年末に冒頭のような「世界が今、憎み合っているのは、誰もがきつと、ごめんねを言わない」という歌詞の歌が流れ、二〇〇〇年に古賀先生が「参加する側、受け入れる側の相手に対する思いやり、それが『小さな地球計画』が育んできたものであるし、今後も育み続け、世界の平和を築き上げる礎になっていくものだ」と信じています。」という言葉を残されたことの間には何の関係もありません。しかし、この十年間にあまり人間は変わっていない、ということがいえるのではないのでしょうか。

古賀先生が求めた「世界中の人が仲良く平和になれること」、それを求めていくのが地球市民の会の目指す道であるし、古賀英語道場や古賀空手道場、そして、夢の学校がつくる会も同じことだと思っています。二〇一〇年の年頭に当り、改めて古賀先生の思いに触れ、全員で実現目指して頑張っていかなければならないと感じました。

# 和顔愛語



佐藤 昭 二

## 人間 <sup>マコト</sup> 真の生き方とは、

人間の本当の価値とはどこで決まるのか。この問題に直面したとき、私達は大抵困ってしまう。私は、その価値とは死に行くときに決まっていくように思う。

人間は産まれたときが予算で、死ぬときが決算であろうと思う。決算、そこにその人の人生が全て現れて来る。私達人間は、生きているときに他人を決算の如く評価してしまう。決算の予測はたてられるにしても断定するには、少々問題があるのかも知れない。

ましてや他人の決算予測である。私は過日、この人生の決算をものの見事に終えられた方を目の当たりにした。先月号の和顔愛語の「私の先生」で書かせていただいた村上清先生の奥様である。里は兵庫県宍粟郡の山奥、山崎である。6歳の時絶家になるべき村上家に養女としてもらわれ、本当に苦勞の連続で成人を迎えたようである。

「私を育ててくれたのは厳しいお義母さんでした」と、いつも笑いながら話していた。

この奥様の名は静子、成人して現在の村上清先生をお婿さんとして迎え、子ども5人をもうけ、孫14人、曾孫3人と、今では大きな村上一族となってきた。このお母さんが去る9月膀胱ガンで亡くなられた。亡くなる直前まで明るくさわやかに、見舞いに来る人達に一人ひとりに接していた。人間生きる喜びを語る人が多いが、この方は死に行く喜びを説かれている。私も66年の人生で、これ

ほど明るくさわやかに霊界入りをされた方は見たことがない。葬儀の祭壇、及びご自分の遺影のこと、全て指図され正に眠るように霊界入りをされた。

この静子さんの御次男が、我が地球市民の会の団体会員、村上説男氏である。当時説男氏とお連れ合いの志津江さんが次男有由ちゃん3歳に事件が起こった。志津江さんが近所の奥さんと立ち話をしているわずかの隙に、家の近くに流れている小さな農業用水路で遊んで、この有由ちゃんは亡くなってしまった。この子どもを最も可愛がっていたおじいちゃん清先生は、水路から抱き上げたとき「この世に神も仏も無いのか。なぜ私を持って行かない」と言って泣いたという。この時清先生の奥さん、静子さんは、志津江さんに「志津江さん、ごめんなさい。あなたがこの村上家に来なければ、こんな悲しい思いはさせずに済んだのに」と言って謝ったという。本来なら嫁を責めるべきが常識であるが、反対に謝ったのである。これは数年前に嫁である志津江さんから聞いた話である。それ以来志津江さんは、「何があっても私は村上家の嫁である。」と、誓ったという。主人が地獄に行くなら私も、ということであろう。

姑の静子さんは、解消されていない村上家の因縁の不徳を嫁の志津江さんに詫びたのかも知れない。が、その一言が嫁を本当の自分の子どもにしまったのである。名もない一介の主婦がここまで精神を高められたことに、私はただただ驚くばかりである。



# ～タイ奨学金・現地訪問報告～

11月10日～19日、地球市民奨学金を支給しているクーキャオ学校とボーグウ学校を訪問した。両校があるイサーン地方・ウドンタニ県とカラシン県では年に1度の米の収穫時期を迎えていた。

今回、2年ぶりに現地を訪問し、国の状況が大きく変わってきていることを認識した。学生たちへの教育費補助、障害者やお年寄りへ生活支援、医療費の無料化、貧困家庭への補助など、国からの対策が始まっている。ここ十数年間の経済発展に伴い、国が弱い立場にある人々を支える力を持ってきた。

しかしながら、この両地域ではそれらの対策がまだ十分でないことが伺える。子ども達が学校に通うことさえも困難で経済的に不安定な家庭は存在する。

子ども達の生活の様子と共に、タイで見てきた現状をお伝えします。

## ～子ども達の生活～

『サフディカー（こんにちは！）』と合掌して子ども達が迎えてくれた。明るい笑顔を見せてくれた子ども達…どんな生活を送っているのでしょうか？インタビューしました☆

Q. 朝一番にすることは？

A. 托鉢にくる僧侶に、食べ物を準備すること。  
仏教の信仰が大切で、寺院の存在は大きい。

Q. 週末は何して過ごすの？

A. 両親の仕事を手伝う。今は、お米の収穫だから、  
家族みんなで朝から晩まで田んぼで過ごしている。

Q. 食事は何を食べるの？

A. 主食は、もち米。野菜の炒め物や生野菜が中心。  
（日本では食べない食材も多いようで）こあろぎを見て、美味しいよと教えてくれた。

Q. 学校での楽しみは？

A. 新しいことを学べること、友達と会えること、運動会などの学校行事も楽しいよ。



## ～子ども達にとっての奨学金～

奨学金に支えられながら、高校生活を送ってきたスパワンちゃん。勉学も課外活動も頑張って取り組んだ彼女は、推薦枠で大学の進学を決めていた。彼女は、奨学金を受けてきた3年間で、『奨学金で、昼食や文房具を買うためのお金ができました。何より嬉しかったことは、里親さんが遠い日本から応援してくれたこと。頑張ろうという気持ちを持てた。』と振り返った。彼女は、『将来は、村長になって、みんなが幸せに暮らせる村にする』と熱く語ってくれた。里親さんの里子達を思う気持ちが、花開き始めている。

里親の皆さんからお預かりしました地球市民奨学金の本年度分をクーキャオ・ボーグウ両学校に届けてまいりました。早速、奨学生の両親を呼び、手渡す予定です。引き続き、里子さん達を見守っていただきたくお願い申し上げます。



## ～都会の経済発展から取り残された地域～

冒頭で、国が弱い立場の人々を支えていく力を持ち始めていると述べた。では、なぜまだこの地域には学校に行くのが困難な子ども達が存在するのであるのか。調査を進めるなかで子ども達が抱える問題が見えてきた。

95%が農家というこの地域。水が十分に確保できないことから、他の産業が発展しなかった。どの家庭も、家族で消費する分を作り余った分を売って、現金収入を得る。発展による物価の上昇に、子ども達を学校に通わせるための現金収入が追いつかない。『昼食代が渡せない時もある』という話も耳にした。

そして、経済的な問題だけでなく。この地域で十分な収入が得られない人々は、都市部へ働きに出る。家族のことを思って働いているはずが、いつの間にか家族がばらばらになっていく。ある地域では、離婚率が80%と聞いた。そんな家庭環境に置かれた子ども達は、寂しさと将来への不安を抱えながら生活をしている。





## ～タイ事業の新たな方向性を探る～

タイ奨学金担当理事 西村 尚子



バンコクにある国際空港から地方便に乗り換えて1時間。福岡から1日ばかりでやっとウドンタニ空港に到着したときは、もう既に日が暮れていた。空港を出ると、11月にもかかわらずムワーとした熱気にはバンコクのそれとはまた少し違った現実的な厳しい空気感がある。空港では

奨学金担当のスラポン先生が私達を迎えてくれた。“ニシムラは昔からずっとこのオレンジ色のスーツケースだね。”と笑う。約8年前にタイを初めて訪れる時に、空港ですぐに見つけられるようにと年甲斐もなくド派手な色を選んだのだ。今は傷だらけのこのスーツケースは、毎回、里親さんから里子へのプレゼントや里子からの感謝の手紙など、数々の人々の想いを運んできた。そして、イサーン地方の赤い土と子ども達の笑顔、その裏にある数々の悲しみを体験している。

今回の訪問で見たクーキャオ校は、国と地域の支援を受けて質素ながらも美しい環境の学校へと変わっていた。子ども達が通いたくなるような学校。タイではいわゆる「夢の学校」という。学費も教科書も無料である。しかし、学校へ通うには制服・靴・鞆・バス代・毎日の昼食代など、この地域で自分の農地を持たない20%の家庭には大きな負担となる。今回のアンケートの結果では、中学1年生のクラスで2名の子どもが貧しさのために実際に学校を退学している。家庭の収入と学費として支払う費用を比べると、子どもを学校に通わせることができないのだ。10日間の調査期間で、僧侶・村の長老や村長たち・小学校の先生方や診療所の先生・養護学校などに、昼食をとる時間も惜しみ、毎日暗くなるまで聞き取り調査を行った。学校でのミーティングも数回行い、子ども達のために何ができるのかを真剣に話し合った。最後のミーティングでは、米の収穫時期の休日で大変忙しい時にもかかわらず、校長先生を含めて19人の先生方が集まってくれた。

この地域にも格差があり、本当に貧しい子どもには今の奨学金の金額では足りない。昼食代でさえ以前の3倍（15

パート）になっている。お金が必要な子、制服などを支給してほしい子など家庭の状況は様々である。もちろん、全ての子ども達を助けることなどできるはずがない。しかし、もっと有効な奨学金の使い道があるのではないだろうか。話し合いはノンストップで3時間半にも及んだ。そして、彼らの中から、学校で新しくプロジェクトを立ち上げて、より多くの子どもが学校に来れるように基金を創設したいという意見が出た。学校で新しい農業の方法を学んだりこの地方特有の技術を学んだりすることで、子ども達が幸せになるための勉強ができる。できた品物売り、そのお金を基金に充てて貧しい子ども達がお金で学校に通うことができる。「できる」という想いと「日本の人と一緒にする」ということは大きな力になるだろう。人を育てるということは長い年月が必要である。1990年から築いてきた日本からの奨学金事業を通して、私たちはタイの子ども達の心の支えになってきた。その子ども達が今、先生となって7人がクーキャオ校へ戻ってきており、他の先生方と一緒に自分たちの知識でプロジェクトを実行したいと声をあげた。もちろん皆ボランティアである。次代を担う若者がTPAの理念を受け継ぎ広げていくことができる。私たちの支援の道のりは、彼らの自立への道へとつながっている。最後にスラポン先生の言葉をお伝えしたい。「私は貧しさのために1年間学校へ通うことができませんでした。でも、諦めることはありませんでした。なぜなら、明日を目指して歩き続ける先には希望へと続く

道があったからです。」私のオレンジのスーツケースは大切な想いを日本へと運んできた。8年たってもやっぱり彼らのことが好きなのは、人なつっこい子ども達の眼差しや少しのんきでも歩むことを諦めない彼らの誠実さ故だろう。今、オレンジ色は私のラッキーカラーとなっている。



# 村プロジェクト活動だより

村プロこと村落開発プロジェクトは八月下旬より始動しました。そこから現在までの活動報告をします。村プロの活動は大きく分けて三つあります。

(当事業は、佐賀市より中山間地の過疎化対策事業の一環として事業委託を受けて実施しています。)

## 1.中山間地元気応援事業

- PRA/PLA手法を使った集落調査
- PCMを使ったプランニング
- パイロット事業

→これらは主に国際協力のフィールドで使用されているもので、住民参加型の手法であり、住民のモチベーションが向上し、自立発展性の高い事業ができる。

## 2.自分自給率向上事業

自分自給率とは？

→自分で栽培したものを消化しよう。また、知っている農家、自分の知っている工場の人から買うことで自分自給率を上げていこう！(大豆一握り運動、マイハタケ運動、生ごみ堆肥等)

- キャンペーン、セミナーや、イベントなどを行いPRしていく。

## 3.地域間交流事業

- 都市部校区単位と山村集落の定点交流
- 子どもの山村体験交流
- 産直による農産物販売→安心安全な山村の食べ物を都市部の固定客に販売する。

これら三つの事業をおこなうためにも、まず地域を理解することが必須です。今現在は対象地域へ行き、インタビュ、イベント、農林業のお手伝いをしながら、地域の理解とともに人脈作りをおこなっています。

今後は、村プロの上記三つの柱に繋げていけるように体当たりで活動をおこなっていきます！今後ともよろしく応援お願いします!!

(担当：岩永)

## 今号のエピソード

担当岩永は佐賀市の中山間地・旧富士町へ地球市民の会の事業の支援をお願いすべく地域の方々を訪問しました。11月初旬、地域に根付いた活動が評価される地元市議会議員と面会したところ、「あんたらには、できんから、やめたほうが、マシじゃ、なかと？」と、つれない返事。よくよく真意を推し量ったところ、彼が言いたかったのは、「外からの人が地域のことを良く知らないで何かやっても2～3年で出て行って、残された地元の者はかき回されて終わり、ということが今までたくさんあり、地球市民の会もどうせそんなことしかできないのだろう。」ということでした。

おっしゃることはごもっともです。期待されていないし、信用もされていません。さて、どうすれば事業はうまく行くのでしょうか？「本気でやるのならば、一ヶ月林業ばやってみて、それから、話ば聞いてやる」との言葉をいただけたので、担当岩永は「ハイ、わかりました。是非、修行をさせてください！」と即行動。

12月になってまずは8日間の林業研修です。前半が終わった時点で担当岩永は「ハンパじゃなくて、キツイです。林業に携わっている人は命を懸けてやっていたらしゃる。外から、チャラチャラした発言や行動は失礼に当る、ということが良くわかりました」と答えていました。

ガンバレ、担当岩永！会員の皆さまの応援メッセージ、お待ちいたしております。

次号「マチの人の勝手な植林」をテーマにレポートをお送りします。

12月は富士町に住み込み(8日間)で、林業のお手伝いをしてきました。



枝打ちの様子

## 自分自給率向上事業

11月25日、当会の名誉副会長であり、スリランカ奨学金の元里親でもある、秀島佐賀市長とお話をさせていただく機会があり、地球市民の会の「自分自給率向上事業」と佐賀市長のマニフェストにある「農業版まなざし運動」、佐賀市が取り組んでいる「ファーム・マイレージ」運動を協働でできないか相談させていただきました。秀島市長から農業振興課にお話をまわしていただき、今後取り組めることがあれば、地球市民の会との協働事業も選択肢として考えていただけるとのお話となりました。地元への貢献もする「国際協力団体」としての新しい動きをご注目ください！



# テラネット 全国大会 in 幣立

て、最新の地球市民の会理事会で議論されていることや、進行中の事業の報告が成されました。

地球市民の会の国際協力事業、タイ事業・ミャンマー事業・スリランカ事業の方向性については発展的に継続されていくことが報告され、なおも注力されていくことが確認されました。また、二十五周年記念事業で提唱された「農」の事業についても改めてその考え方を説明し、その延長上にある、中山間地元気応援事業（村プロ）、自分自給率向上事業、地域間交流事業について具体的な進め方が説明されました。

また、新規事業として、チャリティ・ネットショッピングモールや企業との協働によるチャリティショップ（近日詳細をご説明差し上げます）について意見交換がなされました。

平成二十二年十二月五日（土）～六日（日）熊本県蘇陽町の幣立神宮内、世界平和道場（つまり、佐藤会長のご自宅）でテラネット全国大会が開催されました。テラネット全国大会は「地球市民運動」に賛同し活動するすべての方が集い語らう会です。特に全国十二箇所にある、ネットワークの同志との年に一度のお集まりの日となっています。

東京、岐阜、福岡、北九州、熊本の地区地球市民の会、夢の学校をつくる会、佐賀からは理事や会員が集い総勢二百六名の開催となりました。

十二月五日は久しぶりに詰まった皆さんが近況を語り合い、活動を報告しあいました。そして、特に、古賀前会長が亡くなられてからはじめての全国大会ということ、地区地球市民の会が心配されていた「この先、地球市民の会はどこへ向かっていくのか？」ということについて



近況報告をしています。

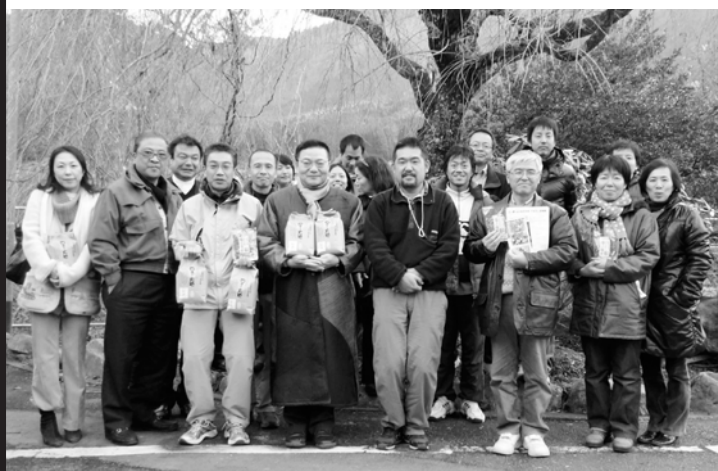


古川名誉会長、佐藤会長、多良副会長、西村一守理事、西村尚子理事、八田理事、みんな酔っ払って「いい感じ！」

第二部は懇親会で、ここから、当日公務でお忙しい中、古川 康名誉会長（佐賀県知事）も駆けつけていただき、夜遅くまで楽しい同志のひとは続いています。

翌朝、早朝六時から幣立神宮清掃活動を行ない、春木宮司には無理をお願いし七時から幣立神宮正式参拝をさせていただきました。前日天然酵母を使った佐藤会長のご家族により作られた心づくしの手作り石金焼きパンを朝食として頂き、二日目のプログラムとなりました。

二日目のプログラムは幣立神宮からわずかな距離で自然学校を営む杉田英治さんの特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校を見学しました。杉田さんは栃木県出身の冒険野郎で、プロのカヌーガイドです。アラスカのユーコン川を源泉から河口まで単独紀行やチベットの少数民族



五ヶ瀬自然学校理事長 杉田英治さんと地球市民の会古川名誉会長をはじめ悪党軍団

族の村への単独旅行などを行なっていました。縁あって宮崎県五ヶ瀬町に移転し、カヌーツアーを行なっていたところ、地球市民の会 副会長 山口久臣氏と出会い、その口車に乗り、自然学校を「だまされて、つい、作ってしまった」そうです。ところが、持ち前のセンスか、冒険野郎の向こう見ずか、行政を含めた多くの人の協力を得ながら、魅力ある素晴らしい活動をされています。いまでは自然学校だけではなく、エコツーリズムや過疎地域の地域おこし事業も行なっており、「地域の人が幸せになることが『自然学校』の本当の意味だ」と語るすてきな方でした。

皆さんお疲れ様でした！  
来年もまたお会いしましょう！



ローカルスタッフを  
ちょびつと紹介!!  
★第2弾★



# パゴダの国から ミャンマー通信

さあ今回は、TPAミャンマー事業の拠点の一つであるナウンカセンターを切り盛りするスタッフをご紹介します。ナウンカセンターは2006年にJICA事業により完成し、農業研修と食品加工を行うための施設です。ここ1～2年で併設デモファームがとても良く管理されるようになり、作物の出来も向上しました。ヤーコンは特に人気上昇中！



## クン・ティアウン

当センターの責任者。彼は34歳と比較的若いですが、3人の部下をまとめている優秀なスタッフです。このセンターでは2ヶ月に1度、村の農民を対象にした農業研修を行っているのですが、彼はその講師も勤めております。普段はどちらかといえば口数が少ない方なのですが、研修の際は冗談やユーモアを交えつつ講義を進め、また教え方も非常にわかりやすく丁寧なため、彼の講義は毎回好評です。また、34歳独身で、農業に関する知識も技術もあり、ユーモアセンスも抜群、そして精悍な顔立ちをしているため、研修生としてやってきた女性の中には彼に惚れ込んでしまう人もけっして少なくありません（笑）。しかし、彼には意中の人がいるらしく、そのような申し出はことごとく断っているとのこと。そういう一途な誠実さが、また彼の魅力なのでしょう。なにはともあれ、彼の恋愛が成就されることを祈るばかりです。

## クン・エーペー

養豚事業の責任者。御年27歳、2009年4月に結婚したばかりという新婚ほやほやでございます。今までは他のスタッフ同様、センターに住み込んで働いていたのですが、結婚を機にセンターを出て新居で新婚生活をエンジョイしているところです（義母も同居ですが）。よほど新婚生活が楽しいのか、センターに行くたびにいつもにやにやしています。他意はなく「昨日の夜は寒かったよね？」と言うと、彼は「結婚したので、もう寒くない」と意味深なことを言って、またにやにやする始末……。しかし、結婚してからさらに責任感が出てきたのか、最近の彼は本当によく仕事に励んでいます。



## クン・ラティン（22歳）とクン・バーマウン（19歳）



↑クン・ラティン



↓クン・バーマウン

二人ともセンター近くの村出身で、去年の12月にスタッフとなりました。どちらも真面目なのですが、恥ずかしがり屋のせいか口数が少なく、ミーティングのときなどに意見を求めても「特にありません」か「同じです」ばかり。しかし、最近の若者らしく（？）最初の数週間こそ黒かった髪も、いつの間にか赤や茶色になりました（笑）。彼らの当面の目標は、農業研修の講師となることです。技術的には理解してきているようですが、知っていることと教えることはまた別物です。現在はスタッフ会議のときに模擬講義を行うなどして、講師としての技術を学んでいるところです。

# 行く人、来る人



離職

畑 恵子

古賀前会長の「お前が来たのは縁だ」という言葉が、今はすんと心に落ちます。地球市民の会は、目まぐるしく常に動いています。歴代上司はアイディア(思いつき)に長け指示が飛び、暇という言葉に縁はなく(たまには欲しい)、心温かな(物好きな)人々が集う、そんな事務局。何ヶ月もかけて1円玉をミャンマーの子ども達のために貯めて下さる会員さん。手編みのマフラーを下さる会員さん。有明抄を見て何かできることはないかとお電話を下さる里親さん。コツコツと古切手や書き損じ葉書を集めて下さる学生や一般の方々。地球市民の会はこのような多くの人々によって、日々創られていっているのです。

そして、それは私自身も同じでした。4年弱という間に、私は少し変わることができたと思っています。それは、毎日仕事(むしろ生活)を共にしたTPA・古賀道場・夢学の事務局員、理事、会員さん、地域の人々、国内外の協同者などが、今の私を創ってくれたのです。「そんな皆が好きだから」「来るべくしてここに来た」と、心からそう感じながら仕事ができたと、本当に幸せに思います。

NPOとか国際協力とか、何も特別なことではありません。「好きな人々のために」と思って動く、私はただそれだけでした。佐賀を離れることにはなりますが、皆さんと同じ「地球市民」です。地球のどこかで、またお会いしましょう。本当にありがとうございました。



着任

藤瀬 伸恵

はじめまして、11月から事務局で働かせていただいております、藤瀬 伸恵と申します。担当はミャンマー事業です・・・そうです、なんと畑さんの後任です。TPAの大事な海外事業ミャンマー担当とあって、プレッシャーを感じながら仕事を覚えている最中です。

現在、戸田さんと同じ25歳。伊万里で生まれ、3歳からはずっと佐賀市育ちの都会っ子です。以前は金融業界で営業をしておりましたが、国際協力に携わりたいという想いが叶い、縁あって地球市民の会で働かせていただいております。モットーは「感謝・忍耐・笑顔」です。まだまだ修行中の身ですが、感謝の心を忘れず、笑顔で毎日仕事に取り組みたいと思います。

最近ではミャンマーの方々の笑顔に会える日を心待ちにしています。みなさんもミャンマーの子ども達の笑顔に、そして私に会いに2月ミャンマースタディーツアーへ参加しませんか？お待ちしております!! 畑さんのように・・・とはいきませんが、少しでも皆さんの、またミャンマーのためお役に立てよう頑張ります。よろしくお願いたします。



着任

かい ふう まる なお こ  
貝通丸 直子

11月からだいたい木曜日にボランティアさせていただいております。コードネームは「にゃおにゃお」から「お通」に変更のち、ハタさんからは、「おっつ」と呼ばれております。(よかった、ウツズじゃなくて・・・) 戸田さん藤瀬さんと同じ25歳でございます。会報をごらんの皆さま、初めまして。

日頃は、佐賀駅付近のビルのなかにある特定非営利活動(NPO)法人のスタッフとして、窓際付近の席を住みかとしております。

なぜ、TPAに紛れ込んでいるかといいますと、私はNPO団体育ちではないのにもかかわらず、『NPO団体さんの支援』が業務なのです。そこで、『団体のことを知るために』の名目のもと、毎週せつせと高木町へと遊びに行っているのです。

直前職は、お薬屋さんのスタッフだったりもしているのですが、その前は、デザイン屋さんや印刷屋さんにもいたことあるので、チラシ等々を作ることができ、私にできる範囲内でお手伝いをさせていただいております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

高柳から畑さんへエールを送ります

## フレー フレー 畑 恵子 !!!

畑さん、いよいよお別れです・・・

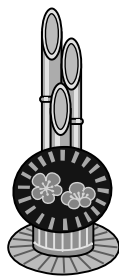
畑さんがTPAを退職して別の道へ歩き始める事を聞いたのは、私がここで働きだして3ヶ月くらいたった頃でした。びっくりしゃっくり?! まだ、仕事にも慣れずに、バタバタしていた私は、先行き不安でいっぱいになったのを思い出します。事務局の陰の大黒柱で大車輪の役割を担っていた畑さんの穴埋めは、事務局員全員一致団結してかからないと大変でしょう。でも、畑さんがきつと悩み悩んで出した答えだと思うので、これから高くでっかいハードルをクリアしていかなければならない畑さんを大きな拍手で送り出したいと思います。

♥ TPA事務局員たちは あなたの一番の応援団です ♥



# 謹賀新年

タマテ箱 古賀日和 書



今年は『夢の学校をつくる会』

設立5周年を迎えます。

再度原点に立ち、『夢の学校とは』を考えながら、これまで、そしてこれからの活動を皆さんと共有できる年にしたいと思います。

日頃のタマテ箱プログラムの中から活動の意味、子ども達の声を紹介します。

## 武道・芸術



一人の世界チャンピオンを出すより  
より多くの人格者を出す事が大事  
— 知道流空手道最高師範 大塚博純 —

## 料理



日々の中に、身近な所に発見や驚きがある。  
「塩もいろいろあるね」「ザラザラしているよ」  
「しよっぱいけど甘い」

## 夢の学校タマテ箱 ぼうけんタマテ箱

## 自然



ふる里、川、海、木、森、虫、生き物と遊ぶ。  
遊ぶという事は、  
守る、大切にすることの始まり。

## 日本 地球市民



世界は広い  
文化の違いを知る、  
そして自分の国日本を知る。

## 教育シリーズ⑤

平成21年10月9日(金) 佐賀県立美術館ホール

## 三遊亭歌之介独演会 笑って、笑って ハッピー

山下理事長 主催者のあいさつより

「(略)今回の歌之介師匠の独演会は、師匠と公私共に親しくされておりました(当会創始者の)古賀武夫先生も望まれていましたので、ここに実現できましたことは、私達も大変嬉しく思っております。(略)日頃、古賀武夫先生は、『人間は笑いが一番(大切)。』ということをよく言われておりました。(略)皆様方にも、歌之介師匠の楽しいお話で大いに笑っていただき、気持ちを明るく、そして、元気になっていただけたらと思っております。(略)」

主催者の願いどおり、会場に集った約500人の老若男女は、師匠の話に腹の皮がよじれるほど笑い、心の奥がキュンとして涙し、最後は身も心もすっきりと満足した様子でした。笑いすぎて酸欠状態になった人もいたとか・・・。

それにしても、師匠の人気のすごいこと！やはり、プロ、一流は違います。

武ちゃん語録 「気づき」より「目覚め」を、「目覚め」から「行動」へ。百聞は一見にしかず、百見は一行にしかず。



「夢の学校への思い」⑩

## 夢の学校への思い

理事 満岡 聡

私は佐賀で命という切り口から様々な市民活動に取り組んでいます。最近は特にプルサーマル反対運動に取り組み、その活動を通して多くのことを学びました。

今の政治は未来のことを考えない無責任な人達によって行われているということ。そしてその無責任な政治は私達が無責任に政治家を選び、お任せ状態にしていたからだとことです。これはプルサーマルに限らず、道路、新幹線、ダム、医療行政、軍備などすべてについても同じです。だから私はプルサーマルさえ止まればいいとは思えません。私達日本人の大多数が真剣に地球や未来のことを考え、政治に参画するような社会にしなければいけないと思うのです。

そのためには、私達自身が見識を深め、私達と対話を通して政策を考え、あらゆる物事についてきちんと意見を持つことが大事だと思うのです。その判断基準は、それが自然か、未来の子どもたちを含めて世界の人々みんなの幸せになるかということ。そしてその方法は対話と教育しかないと思うのです。

夢の学校では、「命の授業」を通して、よく生きることを伝えたいと思っています。今日死んでも後悔しないように毎日を生きること。食事をしたり、睡眠をとったり、家族と過ごしたりするありふれた日常生活に幸せを感じる。戦争も飢餓もなく、自由な言論や集会が保障された社会に生きていることに感謝すること。

世界は環境問題から危機的な状況です。そして飢餓、貧困、戦争などで救いを求めている人がたくさんいます。行動すると世界は少しずつ変わること。人に希望を与えること以上の愛はありません。与えることは同時に頂くことです。

夢の学校から世界を救う子どもたちが育つことが私の夢です。

「私の考える教育とは？」⑩

## 念ずれば花開く 夢を叶える力

夢の学校タマテ箱 アシスタント 山口 則子



4月から夢の学校タマテ箱でアシスタントをしています。子ども達の制限のない発想に、驚きの日々です。

今は佐賀市のゴスペルグループに所属しており、子ども達に歌を指導する機会があります。子ども達は、始めなかなか声を出してくれません。そんな時私はまず、大きな声で挨拶をします。すると負けじと大きな声で返してくれます。大きな声を出した後の子ども達は、爽快な、いい顔をしています。私はその顔が大好きです。

私はよく子ども達に将来の夢をききます。堂々と答える子、恥ずかしそうに教えてくれる子、日々夢が変わる子、夢なんてない！と言う子、様々です。そのたびに彼らの大きな可能性を感じ、嬉しくなります。

高校時代、国語の先生が私達に『念ずれば花開く』という言葉をご贈ってくれました。私達はこの言葉が好きでした。そして今、自分の夢に向かって突き進む人、周り道している人、様々ですが、大人になっても諦めず夢を見続け、大きな夢を現実にしています。

夢を叶える事は簡単なことではないでしょう。大きな壁が立ちはだかったり、心が折れそうになる事もあると思います。だからこそ、子ども達には、やってみる、間違える、失敗する、考える、もう一度やってみる、そんな経験をたくさんして、自ら乗り越え、想いを形にすることを学んでほしいと思います。うまくいく事もあれば、いかない事もあります。でも諦めずに成功するまでやれば、『失敗』は『過程』になります。それは誰かが教えられる事ではなく、子ども自身が大人を見て感じ取るものだと思います。だから私達大人も一生懸命輝いていなければいけません。

子ども達に知ってほしいことは、『夢を叶える力』です。念ずれば花開きます。子どもも大人も、一生懸命輝きましょう!!

夢の学校をつくる会 10～12月のご協賛者

三浦哲彦様、西山正廣様、江頭澄子様、出光智美様、古田悦子様、山下雄司様、森永勝馬様、江口京子様、LDD Project様、伊豆哲也様



**ホームページ : <http://kogadojo.com>**

**夢!情熱!感動!**

## OB, OG, 卒業生は宝物です vol.8



おまえ達は、  
弟子やけん、  
仕方なかと！  
がハハハッ

池田さんを指導されていた頃の武夫先生  
怖いものなしの32才!!

古賀道場「ようこそ先輩シリーズ」第8弾

古賀英語道場がまだ佐賀日仏文化会館の「英語講座」で、ほとんどの生徒さんの受講時間が週4時間あたりまで、尚且つ武夫先生がものすごく血気盛んな1980年代に高校生で被害者(?)だったOBの池田さん。そんな経験が現在の職業に立派に役にたっているのではないのでしょうか☆☆☆☆感謝 感謝

武夫先生  
回想錄

## 池田 晃太郎

私が古賀英語道場で学んだのは、教室建物の奥に自宅があり、私の馬鹿話に三十分以上つきあってくれる土井先生はまだまだ若くてきやびきやびして、一緒に教室に通った今は女医さんをしている同級生のNさんの「どう

当時の古賀英語道場は、定期試験前になると英語の試験範囲の勉強も見てもらえるという感じで、まだ英語塾の延長という感じを残していた。

古賀先生の授業は、授業時間の半  
いや四分の三くらいか？が、まず、英  
語とは関係ない世間話や最近の日本語  
はなつとらんだのといった話と何度も  
何度も聞かされる先生の自慢話で潰れ  
「先生の自慢話ばかりもう聞き飽き  
たよー」というささやかな抵抗が「お  
前達は弟子やけん仕様がなかと。黙つ  
て聞かんば。」という一言で制圧され  
るというやりとりを毎回経て、その残  
りがやっと英語の授業にあてられるの  
だった。

先生曰く「俺は一〇分で普通の英語教師の一時分は教えらるるから心配するな。佐賀西高校や唐津の高校で教鞭をとっていたときも、生徒には一ヶ月もあれば一年分教えるのに十分だから心配せんでよかと言って無駄話ばかりしていたが、結局間に合わんやつたもんなあ、がはははは。」と訳の分からない終わり方をするのも珍しくなかったように思う。

古賀先生も若くエネルギーで、時代はまだまだ牧歌的だったと思う。私は高校当時も決して優等生ではなく勉強嫌いだったの、とにかく友だちと遊びたくて古賀英語道場にも通わなくなってしまった。

高校卒業後、十年位して佐賀に戻り古賀先生に何かのパーティで久々にお会いした。

「先生こんにちわ。どうもご無沙汰  
しています。」、さてさて忘れられてい  
ないだろうかと心配しながら、挨拶に  
行くと、当然のように「おお、晃太郎  
か」と言われ、まあ恐縮しながら挨拶  
に行つて損したよと思わせてくれるく  
らいに一氣に時の隔たりを接合してく  
ださる。

それから何かといういろいろな場でお目にかかることも増えたけど、よく「お前にいろいろ相談せんばことのある」とか「ちよっといろいろと困つとさ」などと言われることがあった。「いつでもよかですよ。いつがよかですよ。」と答えると、「また今度ちゃんと連絡すつけん」と言われたつきり連絡がないことの繰り返しだった。不肖の弟子に相談するのはやっぱり躊躇われたのかもしれないが、自分のことはいつもそつちのけ、後回しのくせに、知り合いや生徒が困っているときにはわざわざ連絡してきては心配ばかりしておられた。多忙だったことは勿論だろうけど、元来照れ屋で見栄つ張りなところのあった先生らしいと言えば先生らしい。

そうか、あの頃たくさん聞かされた

[illegible]

古賀英語道場第4期生

佐賀県立佐賀西高等学校入学・卒業

途中、古賀英語道場を落第・放校を経て、  
早稲田大学政治経済学部政治学科入学・  
卒業

現在、佐賀県にて弁護士業を営む。

平成20年、21年度佐賀県弁護士会副会長、九州弁護士会連合会理事、日弁連法務研究財団理事等肩書きだけは沢山ある。  
(原文のまま)



無駄話や自慢話も、今から思えば、本當に大切なことを僕らに伝えるときの先生一流の照れ隠しだったのかも知れない。先生のそんな話の中に実はいつとも先生の信念、考えが強烈に貫かれていて、知らず知らずのうちに深く影響を受けていたということが今はよく分かる。私の不出來な頭と我が家の家庭環境では国際感覚は身につかなかったけど、先生の話から社会正義と他人への思いやりはたくさん教わった。

私は、今、佐賀で弁護士をしているが、この仕事をする上で大切なものときつと先生から沢山学んだのだらうとこれまたつくづく思う。そんな先生には今更ながらに感謝せずにはおられないのである。

次号も、宝箱をあけて素晴らしいOB・OGに登場して頂く予定です。ご期待下さい！

# 協力者一覧

地球市民の会 10～12月のご支援の皆様!!(本当に有難うございます)

## 正 会 員

岩永 清邦  
北原 壽豊  
久保 正敏  
古賀 大之  
古賀 智津子  
古賀 友大  
坂井 善徳  
高柳 かほる  
堤 加奈子  
徳光 清孝  
戸田 玲子  
永倉 遵五郎  
中島 康子  
永富 丈  
中西 和彦  
中山 重俊  
野口 翔平  
野田 誠  
畑 恵子  
福井 丈一郎  
福岡 資麿  
藤井 敬三  
藤崎 博喜  
古川 昌宏  
古川 康  
堀口 勝郎  
牧瀬 弓子  
馬郡 有子  
水野 新平  
溝上 茂  
満岡 聡  
宮地 普工  
森永 勝馬  
八田 康博  
山下 定美  
若林 剛  
音成 日佐男  
石黒 秀司  
加々良 エミ  
境野 正武  
瑞木 一博  
竹山 みやこ  
中村 豊久  
原口 一博  
春木 伸哉

富吉 賢太郎  
諸井 政司  
小柳 哲郎  
前田 伸二  
濱田 英樹  
原 陽子  
神山 秀美  
森高 康行  
宮地 利明  
西山 峰次

## 団 体 会 員

有限会社 テイグレ  
㈱佐賀銀行秘書室

## 維 持 会 員

古賀 洋子  
小林 敏孝

## 購 読 会 員

岡本 明久  
村田 修一  
古賀 久志  
牟田 泰明  
山崎 弥生

## 学 生 会 員

樋口 七菜  
古賀 慈猛  
片山 ゆう子  
中山 康平

## 切手・書き損じはがき

有限会社佐賀墓石  
石井 訓志  
佐藤 さち子  
西村 明美  
有田社会福祉協議会  
東京海上日動火災保険㈱麻生  
円城寺 久好  
NHK佐賀放送局  
横尾 敏子  
堤 堯子  
龍 千秋  
御厨 初美  
安心院 晶子

伊藤 節子  
唐沢 利夫  
井上 祥代  
磯部 芳子  
鍋島幼稚園  
山口 則子

## 寄 附

馬場 佐和子

## タイ クーキャオ中学

愛野 良治  
阿部 礼子  
池田 サチ子  
伊豆 哲也  
板垣 道代  
彌富 和枝  
岩永 公代  
内山 治郎  
浦郷 めぐみ  
江頭 泰子  
江口 典子  
円城寺 久好  
大島 佐江子  
川平 勝己  
木下 博和  
倉富 博美  
小園 沢馬  
佐藤 弘子  
佐藤 基子  
千住 泉  
重松 孝信

田久保 克明  
徳永 千恵  
中島 文子  
中村 志津香  
南里 玲子  
納江 幸利  
野内 直穂美  
秦 智美  
原田 典子  
馬場 佐和子  
馬場 龍之介  
平川 恵里  
平野 朋子  
深川 明子

福井 丈一郎  
福本 淑子  
別頭 照代  
本弓 康澄  
槇 美穂子  
前田 綾子  
松瀬 直美  
的野 直喜  
宮地 信文  
武藤 鼓  
森永 勝馬  
山口 則子  
山下 雄司  
吉田 じゅんこ

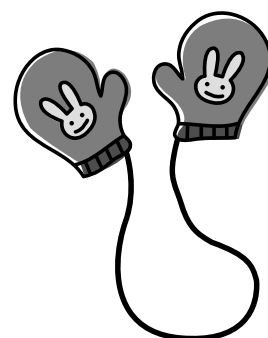
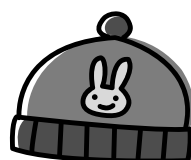
## タイ クーキャオ高校

江頭 泰子  
円城寺 久好  
大串 千和子  
大塚 寿美雄  
北村 尚道  
古賀 大之  
小松 重輝  
佐々木 佳寿子  
千住 友二  
納江 幸利  
野内 直穂美  
林口 多江子  
松枝 和代  
松林 久美子  
的野 直喜  
森田 由香

森永 勝馬  
秋吉 五郎  
秋吉 恵介  
矢新 教子

## タイ ポーゲウ校

愛野 良治  
池田 サチ子  
石川 祥子  
稲葉 田鶴子  
内山 治郎  
亀井 一恵  
北原 壽豊  
小園 沢馬  
背振中学校  
田崎 真洋  
田中 亜矢  
寺戸 純子  
戸田 光俊  
西村 賢二  
納江 幸利  
原田 典子  
平岩 佳名子  
福井 丈一郎  
寶泉 正美  
眞崎 健次郎  
松瀬 直美  
松林 久美子  
宮地 大地  
森池 節子  
山下 陽子  
山田 房子  
吉井 学  
吉田 純子  
森池 節子



※順不同で掲載させていただいております。

※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!



# 1～3月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場  
★は夢の学校の行事です

## ●2月ミャンマーツアー実施（申込締切迫る！1/20まで）

ミャンマーの少数民族の村を訪れ、ともに生活をしてみませんか？  
彼らはどんな人達で、どんな暮らしをしているのでしょうか。  
実際にTPA事業地を訪れ、NGOや国際協力、TPAの活動について知るチャンスです。  
きっと多くの“気づき”に満ちた旅になるはず…!!

訪問先 ミャンマー連邦

- ・ハムシー村(農村体験、事業地見学)・カクウ(水力発電見学、パゴダ参詣)
- ・インレー湖(観光、湖環境保全事業見学)・タンボジセンター(高校生と共同生活)
- ・ヤンゴン(僧院見学、マーケット観光)など盛りだくさん!!

期 日 2010年2月26日(金)～3月6日(土) 7泊9日

参加費 会員82,000円／非会員94,000円(別途、航空運賃)

## ●スペシャリストによる、もうひとつのまなび 世界一参加したい授業のお祭り 「あそまなび」～体験して理解できる新しい出会い～

3月22日(祝日) 9:30～16:00

開催場所 佐賀市 アバンセ

参加費無料(一部資料代、材料代のご負担があります。)

小学生から大人、教員向けの参加体験型の双方向性型プログラム(90分で1プログラム)を一日に20～30講座程度一堂に開催します。  
スペシャリストによる、もうひとつのまなびができる、学校の授業では体験できない「世界一参加したい授業のお祭り」です。  
佐賀県立女性センター・佐賀県立生涯学習センターとの協働事業として実施します。

詳細は1月後半の地球市民の会ホームページをご覧ください。

## ●平成21年度焔博記念地域活性化事業(佐賀県) イベントショー「平和と鎮魂の祈り」(名称変更の可能性あり)

3月27日土曜日

会場 佐賀市エスプラッツホール 15時～(予定)

詳細は2月後半の地球市民の会ホームページをご覧ください。

日本に起こった民間の戦争被害者の悲劇、そしてその悲劇を体験としつつ現在に生きる日本人が平和実現のために「今の生き方」をどうすれば良いのかを問うイベントです。

美しいミャンマーの少数民族の映像と佐賀の新進ミュージシャンのオリジナル楽曲、印象的な語りによるスライドショーによる新しいタイプのプログラム。そして、佐賀空襲を題材にしたオリジナル舞台と体験者による講話というコラボレーションによる地元発信の平和教育プログラム。  
その新作イベントを2本一挙公開！  
おたのしみに！

### ★ほうけんタマテ箱 自然体験活動リーダー養成講座

1月9日(土)～11日(月)

### ★ほうけんタマテ箱 冬山キャンプ

2月27日(土)～28日(日)

### ★ほうけんタマテ箱 ちびキャン(黒髪)

3月25日(木)～27日(土)

### ★ほうけんタマテ箱 みなまたエコキャンプ

3月29日(月)～31日(水)

### ★夢の学校公開プログラム オープンタマテ箱(仮)

2月14日(日)、3月7日(日)、4月11日(日)(予定)



スタッフの  
ひとこと

# さよなら、畑恵子。あなたはこんな人でした！

畑恵子ミャンマー事業国内担当。さまざまな伝説を残しあなたは地球市民の会を卒業していきます。幼かった頃の夢「獣医」になるために。古賀名誉会長は「やめなければ夢はいつまでも続いている。やめたときが夢の終わるときだ」と話していたことが心に響いたようです。貴重な戦力がいなくなるので事務局としては響いて欲しくなかったですが、夢を追いかける畑恵子にエールをこめて、あなたの暴語話をいたします！「ガンバレ！畑恵子！」

## 地球市民の会

- 大野 博之** 「女の皮をかぶった『おっさん』」と人に紹介していたことを心からお詫びいたします。「あ～ああ」を大口をあけて、声を出してあくびをすることや、両手がふさがっている時に扉を開けるのに足を使っていたとか、熱いコーヒーを飲む時に「ズルズル～」と音を立てて飲むのは、おっさんだけではありませんでした。女の人もそうでした。ごめんなさい。東欧の大学ではみんなそうしていると思います。頑張ってください。
- 戸田 玲子** 「ド～んと来い」といつも大きくかまえていた畑さん。全く正反對の私です。受け止めてくれて…感謝してます。私にとって「カッコいい」存在でした。きっと畑さんならステキな獣医になれます!!佐賀からエールを送ります。
- 高柳かほる** 畑さんと出会ってから短い期間でしたが、すごくインパクトが強かった為か、何年か一緒に過ごした様な気分になせられます。2人で話す度に私と似てるなあと思っていました。(畑さんは嫌かもしれないけど…)なので私は畑さんが羨ましいです。私の分も思いっきり世界で羽ばたいてきてください。大野さんと兄弟げんかを見られなくらののはとても残念ですが…
- 岩永 清邦** お会いして3ヶ月ぐらいいでしょうか…もっともっと教わりたいことはたくさんありました。仕事をする時、パソコンに向かってひたむきにやる姿勢強くなりました。また、飲み会の時に一杯目から焼酎を飲む姿にもびっくりでした！これからまた新たに挑戦する姿素敵ですね！こちらもいい刺激を受けて、日本から応援しています！！
- 藤瀬 伸恵** 丁寧に協働な仕事をされる畑さん。ズボラな私は「丁寧に仕事するように」としてついてもらってます。獣医を目指す畑さんのデスクの前には動物の写真のカレンダーが、「今日は何の動物か」めくるのが畑さんの楽しみと知らず、めくろうとした私。あの時、戸田さんが止めてくれなければ今頃事務局に私の姿はないかもしれません。しっかり者で、でもチャームキングな畑さん、夢を叶えて下さい！
- 西村 尚子** 「どちらの子がかわいいか…？」といつも競っていました。もちろん、彼女のハムスターと私のことですが。度を越した動物への愛情は、本物でした。「ガンバレ、恵子!!」あなたの「おっさん化」は、人類の進歩、そのものです！！
- 納富ハヤ子** 畏にかかったイチイチに「ワ～かわいい！飼いたい」といった時には、びっくりでしたが、ハムスターへの愛情など、動物を思う気持ちはやっぱり本物でした。いくつになっても夢にトライする畑さんはリッパです。
- 中溝スミ子** 4年前「岡山の桃太郎です！」ととても可愛い畑ちゃんでした。あれから思えば、たくましく「おっさん化」と成長された畑ちゃんに「ハンザーイ」です。これからも夢に向かって楽しんでください。「夢をあきらめないで！」畑ちゃん(^ー^)

## 古賀英語道場・空手道場

- 古賀 洋子** 大野さんとの「フウフげんか」は、私の生き方のバイブルにもなりました。(アラツゆりちゃん、誤解しないでね～!)恵子ちゃんの「向き合い」の姿勢は「向き愛」だなあと思っています。お疲れ様でした。本当にありがとうございました♥もし、スロバキアに古賀先生が遊びに来たら、おいしいお酒を二人で飲んでくださいな。もう肝臓の心配はなくて大丈夫はすだから…
- 山下 春美** スカートをはいてると「何かあったの?」と言われるあなたは実はとても誰よりもカワイイ女子でした。でもオフィスで裸足(ハダカではない)でいるのはTPAだけにしてね。
- 古賀 大之** ちょっといじると、すぐ赤くなる。タコ焼きの様なる～いホッペが見えなくなると思うと、さみしくてしかたありません。中の具は何が入っているのか見たかったのですが…残念です。いつまでも張りのあるホッペのままで…
- 青柳 達也** 何があっても、いつも(無駄に)明るい120ワットの畑さんが、暗～いTPAの部屋の隅々まであかあかと輝くのをこれから見えなくなると思うと残念です。まさに「いじられ」キャラの畑さんはいつもみなさんにつつまれていました。天然なのか、わざとなのかわからないくらいに。世界中どこでも、その度胸あるボケと明るさは通用するのはまちがいないし。

## 夢の学校をつくる会

- 吉村 薫** 今度生まれ変わったら男になりたいと言っていた恵子さん、女の人生もいいものですよ(笑)私にはできない事ですが地球市民で培った猛獣使いの腕を奮って(?)よき獣医になって下さい。今度生まれ変わったら動物になりたいと言っているかもね。
- 相良 伸武** 4年前、地球市民の会総会～新しいスタッフとして緊張した面持ちで仕事していた畑さん。まさか初出勤、初総会の席で居眠りをしていたなんて誰にも言わずに、安心して、獣医目指して頑張れ!

## 地球市民ネットワーク

- 北海道地球市民の会  
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197  
会長／阿部功 事務局長／新保知博  
TEL・FAX: 0133-74-1296
- 地球市民の会ふくしま  
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町第1丁目120-1  
(榊石黒)  
会長／事務局担当 石黒秀司  
TEL: 024-959-6426  
FAX: 024-959-6577
- 地球市民の会東京  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13  
会長／有澤正典 事務局長／伊藤敏行  
TEL: 03-3662-0331  
FAX: 03-3662-0400  
E-Mail: arisawa@nun.co.jp
- 地球市民ACTかながわ  
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203  
会長／近田真知子 事務局担当／伊吾田善行  
TEL・FAX: 045-622-9661  
E-Mail: port@tpak.org
- 地球市民の会ぎふ  
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1  
竹花園内  
会長／森幹治 事務局担当／平井八重子  
TEL: 058-391-5415  
FAX: 058-391-8600
- 地球市民みえの会  
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F  
津市市民活動センター内  
会長／伊藤洋之 事務局担当／秋葉幸信  
TEL: 059-226-5700  
FAX: 059-224-8911  
E-Mail: miemiemie21@hotmail.com
- 地球市民の会京都  
〒605-0873 京都市東山区下島町484  
会長／宮川尚子 事務局担当／西田一貴
- 神戸ノ戸有頂天倶楽部  
〒657-0045 神戸市灘区下河原通3丁目4-3  
会長／松元隆司 事務局担当／大西陽治
- 愛媛地球市民の会  
〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町  
入野859-1  
会長／森高康行 事務局担当／丹生谷孝久
- 北九州地球市民の会  
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14  
中央会館2F  
会長／河野一郎 事務局担当／大山研児  
TEL: 093-521-8181  
FAX: 093-551-2296
- 地球市民の会福岡  
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4  
(榊増屋内)  
会長／増田誠司 事務局担当／西村和寿  
TEL: 092-801-5888  
FAX: 092-801-5789
- (特活) コミネット協会  
〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31  
会長／池永憲貞 事務局担当／富田、田中  
TEL・FAX: 096-387-7139
- 古賀英語・空手道場  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-25-2295  
FAX: 0952-26-4922
- 夢の学校をつくる会  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-22-6262  
FAX: 0952-26-4922

## ネットワークテラ 冬号 VOL.137

発行／  
特定非営利活動法人 地球市民の会  
〒840-0822  
佐賀県佐賀市高木町3-10  
ホームページ: <http://tpa.nk-i.net>  
E-mail: [office@tpa.nk-i.net](mailto:office@tpa.nk-i.net)  
TEL: 0952-24-3334  
FAX: 0952-26-4922  
発行日／2010年1月12日  
発行人／佐藤昭二  
編集人／地球市民の会 事務局  
印刷／株サガブリンティング

再生紙を使用し、環境に優しい水なし印刷で製作しています。